

令和2年度第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 令和2年8月7日(金) 午前10時～11時55分
○会 場 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール
○委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 13名
○市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 27名
○公開・非公開の別 公開
○傍聴者の人数 0人

(午前10時 開会)

1 開会 (全体進行：コミュニティ推進課長)

2 挨拶

(委員長)

(市民部長)

3 意見交換等 (座長：委員長)

(1) 市のコミュニティ施策について

(事務局)

資料1により説明

(A 委員)

P2の地域づくり交付金について、「指定管理委託料と合わせて要員費を重点的に拡充」とあるがどのくらい額を拡充したのか。

(事務局)

33の広域コミュニティ組織があり、組織によって規模も違うため拡充幅も違うが、範囲としては年額で30万円から130万円程度、総額としては2,400万円程度拡充させていただいた。

(A 委員)

これは大事なことだと思う。コミセンの職員は人がいれば良いというポジションではなく、人間力を必要とする職業だと思う。人材にはそれなりの手当を支給して昇給もきちんとする、といった励みがいのあるような就業体制を敷いていただかないとコミセン事業が前に進まないような感じになってしまう。個々の人間力は違うし評価も違うため、そのあたりは厳密に評価していただき、費用対効果で結果を出している人に対してはそれなりの評価をして対価物を与える、支給するといったシステムを作っていければ良いと思う。

(事務局)

現在の制度の仕組みは平成26年度からスタートしている。施設の管理を指定管理委託

料、地域づくりでは防災や福祉等とかなり地域課題も増えているといった状況もあり制度運用5年目にヒアリングを行い、要員費についても要望としてあったため拡充させていただいた。この状況をしばらく見させてもらいたいと思う。雇用の関係はあくまでも各組織での体制になるが、こちらに関しても合わせて検証していきたい。

(委員長)

前進していることを質問で確認いただいた。さらに、研修の仕組みや単位自治組織と広域コミュニティ組織の役割分担みたいなのも次の計画の5年間で出てくると思うので、課題として挙げていただいたと思う。

(2) 鶴岡市地域コミュニティ推進計画(第2期)策定について

(事務局)

資料2、3、アンケート調査報告書により説明

(委員長)

日頃から熱心にコミュニティ活動に取り組んでいただき、さらにはアンケートにも丁寧に回答していただき、現状と課題を掌握できたのは大変ありがたいことだと思っている。これは今後ずっと活用できる貴重な資料だと思っている。時間の関係上、庁舎分も含めてかいつまんでポイントと次の計画に続くようなところを中心に報告いただいたと捉えている。

資料2の説明から始まり、この5年間の計画を経てアンケート調査の報告書で現場から進捗状況や課題について報告があった。これらを踏まえ、さらに意見集約を行いながら、この委員会をあと3回開催しながら、第2期の計画を策定するという方針について説明いただいた。さらには、第1期の計画の柱を第2期でも同じ柱を進めてはどうかという提案をいただいた。ただ、力を入れていく施策や取り組みについては、先ほどの人口と世帯の推移もあったが、ますます人口減少と世帯数の増加、つまり単身化が進んでいるという状況は全地域共通している。一方で、防災等の課題は共有しているが、次の5年間で力を入れなければならない具体的な施策等は各地域で異なってくるのかなという状況について共有できたかと思う。

(B委員)

アンケート内容を見て、非常に問題意識が高く、いろんな地区で前進しているという状況がデータから読み取れた。第1期計画の中で、各地区・地域でやり残したことを第2期の推進計画に反映させるかどうかということが1点目。2点目は、アンケート調査報告書のP2の広域自治組織の「住民主体による持続可能な地域づくり」について、「どちらかといえば前進した」「前進した」の回答が60%を超えている。非常に素晴らしい数字ではあるが、2、3の町内会や広域コミュニティ組織に個別に聞いてみたところ、設問の捉え方がかなり難しいようで、例えば、従来行ってきた生涯学習事業を一生懸命頑張ってやっているのでそれで良い、前進したと思っているのが結構あった。また、地域の課題でもある除雪や交通弱者等の具体的なものをどうしたか聞くと、別にビジョンも作っていないし、5か年計画など作ってもいないからやっていない、それで以前と変わらないと回答したと

ころもあり、中身が知りたいと思っている。

(委員長)

第1期でやり残したことを第2期で反映させるかということと、P2の住民主体による持続可能な地域づくりで前進しているとあるが中身はどうかという問いかけをいただいた。もう少し質問・意見をいただいてから、皆で考えたいと思う。

(C委員)

地域福祉の推進というと、学区・地区社協に担当していただいて活動するわけだが、そちらの方から話を伺うと地域福祉の推進の活動の中で、地域のコミュニティ組織と連携する部分がかかなりある中で、学区・地区社協においてはコミュニティ組織と統合するという方向で検討を進めている地域がある。統合したほうが効果的に事業を進められるという話も伺っているので、資料3P1の下から2行目のように集約した地域も実際あり、そういった視点での検討もこれから必要になると思う。

(委員長)

これも次の課題になると思うが、組織改革とか従来のコミュニティ活動を推進する担い手や組織、団体、連携の在り方についてであった。鶴岡地域の第六学区では、人員も限られているため、コミュニティ振興会、学区・地区社協とか町内会連合会などたくさん組織があるがそこをネットワークとして新しく捉え直して組織改革を行うなど、いろんな形があるが、この5年間で結構組織改革は進んでいると感じているところである。

(D委員)

各地区で女性と若者のリーダーの育成を掲げていると思うが、具体的にはどんな取り組みに努めているのかお聞きしたい。

(A委員)

それが課題である。私の活動しているエリアでも問題意識として感じていることだが、これから5年、10年を青年の育成を最重要課題として進めていかないとこのコミュニティが崩壊すると考えている。

(委員長)

多くの方が同感だと思う。言葉は語弊があるかもしれないが、単位も広域も世代交代が出来ない地域があつて、単位の方がもしかしたら悩んでいるかもしれない。今のD委員の質問について、アンケートをまとめられたときに具体的な好事例の情報があればぜひ教えていただきたい。あるいは委員の皆様から、自分の地域で進んだ取り組みなどあれば教えていただきたい。

(羽黒庁舎総務企画課)

羽黒の手向地区は、昨年度地域ビジョンを策定しているが、アンケートの自由記述では、

住民総参加型のホタル祭りなどを開催して、役を決まった方ではなく、老若男女いろんな方に声をかけて一役を担っていただいて、地域の賑わいの創出と次代を担う子供たちの健全育成を図ったという意見があった。

(コミュニティ推進課)

鶴岡地域では、広域コミュニティ組織を対象として昨年からまちづくり未来事業を始めている。事業実施した第二学区は、天神祭を通じた人材育成というところで若手の神輿担ぎのチームがあるが、そこを核としてまちづくり活動につなげていくという取り組みをしている。今年、若手有志の会が正式に発足し、これから活動していく機会がある。また、小堅地区は現在、シェアハウスを中心にまちづくりをしていく中で、未来創造部という若手がまとまり、地域づくりをこれから活発に頑張っていくという会ができており、シェアハウスを通じて他地区との交流などを頑張っている最中である。加茂地区は、大黒舞の保存会が高齢者で組織されており、存続は難しいと言われていたところに、若い人たちが入ってきて、伝承の継続をし、さらには、いろいろな所からオファーを受けて大黒舞を披露して謝金をもらおうといった活動が広がっている状況がある。

(委員長)

各地区事例はたくさんあると思うが、皆さん課題意識として持っていて、いろんな仕掛けをして進みつつあるところと、なかなか思うように乗ってきてもらえないところと両方あるのかなと思う。D委員から問題提起していただいた通り、全地域共通の課題だと思う。個人的には、先ほど(1)で報告があった地域ビジョンを策定しているところは全住民に声をかけてワークショップを少なくとも5、6回はやっているし、現役で役員を頑張っている方の課題も対話の場を作って徐々に共有しつつ、未来について一緒に語り合っている。人数は限られているかもしれないが、徐々に現状や課題、気持ちを共有して次につなげていくという柔軟いプロセスも地域ビジョン策定は効果を奏してくるのではないかと感じている。

(B委員)

資料1に地域ビジョンの策定の組織が記載されているが、5年間たってまだそこまできていない所もたくさんある。第2期の推進に向けて、例えば、地域ビジョンの策定手順書を作るのはどうだろうか。手順書があると、アドバイザー職員制度の中でも取り組みがしやすくなるのではないか。あるいは、事例も含めながら5ヵ年計画はこのように作るといった様式の作成や、コーディネーターの役割や奮闘記をきちっと情報として共有化した方が進むのではないかと感じる。時間かかるとは思いますがぜひお願いしたい。

(委員長)

先ほど報告あった通り、策定済みは8組織、策定中・策定予定は10組織で、進んだとはいえ、着手していない地域も多くある中で、今までの成果の部分を手順書などもう少し分かりやすくまとめて発信し、導いていくということも必要ではないかという提案であった。昨年度の委員会では、加茂地区自治振興会の事務局長からそのあたりも含めて話して

いただいた。ストーリーとしてどのように皆さんに声掛けをしたのか、どうやってみんなに来てもらったのか、コーディネーターとなってこのような苦労があったといったイメージであると思う。

(A 委員)

青年育成に対しての財政支援をぜひお願いしたい。何も財源がないと呼び込めないのでよろしくをお願いしたい。

(委員長)

先ほどの D 委員の問題提起と合わせて提案お願いということで検討事項 2 つ目になる。

(E 委員)

先ほど委員長の冒頭挨拶にあったように、5年間の計画があったわけだが、現在、社会状況の変化が非常に著しい状況下にあるかと思う。特に、新型コロナウイルスの状況の中で、地域コミュニティや自治会が、何ができるか考えていかなければならない局面にきている。地域のお祭り、敬老会等が中止になっているが、新しい生活様式を参考にしながら地域コミュニティをいかに維持していくか、今後5年間、十分に考えていかなければならないという時期にきていると思う。皆さんから知恵を出し合いながらやっていかなければならないと考えるので、よろしくをお願いしたい。

(委員長)

切実な問題だと思う。計画とは別に、防災をはじめ、いろいろなコミュニティの現場の方々の課題共有、研修の場が必要だと個人的には感じている。計画はこれを前提に考えていかなければいけないというのは、E 委員がおっしゃる通りだと思う。

(F 委員)

このアンケートをどう活かすか、皆さん感じているところだと思うが、良い方に活かしていただきたいと思う。あと、SNS をどういうふうを活用していくかが今後大事になるかと思う。若い人たちは SNS を活用することで参加しやすい、というのはあると思う。それをこの計画に落とし込んでいくのかはわからないが、それに至るまでも SNS の活用というのは今後重要になってくると思うので、検討していく必要があると感じている。また、計画の周知がなかなかできていないとのことだが、そこも SNS を活用することによって広まっていくのではないかと感じている。

(A 委員)

コロナ騒ぎで、うちの自治会では LINE グループを使って情報共有し、皆さん喜んでいる。

(委員長)

とても大事な点だと思う。コロナ禍で始まる次の5年間とあわせて、若い世代を巻き込む・情報共有を含めて、SNS、オンライン、リモートを皆さんがツールとして使えるよう

な環境を整えていかないと、コミュニティ活動だけが遅れていってしまう。学校教育、職場が進むのに、地域の現場が進まないということになると、立ち遅れが出てしまうのかなど。それをしてはいけないので、環境を整えたり、SNSに抵抗を感じている人もいると思うので、SNSを学ぶ機会を作ることも喫緊の課題かと思う。

(G 委員)

子供たちの状況として、スマホの普及率が高い。14歳以下の人口割合が少ないのには改めて驚いたが、その世代は、誘い合うのにスマホを使用している。コミュニティとして考えなくても、SNSで発信すれば、ぱぱぱぱっと返信がくる時代である。形が変わっていくのだろうと思う。先日、渡前地域活動センターの行事があったが、人を集める時のやり方として、部活仲間と呼びかけたら大勢で行くことになり、ポイントポイントで集めると最終的にたくさん集まった。一人でチラシを見て申込みだとなかなか行きづらいので、ピンポイントで身近な関わりのグループで誘いあうと人が集まりやすいというのを感じた。

(委員長)

SNSは若年世代と大人との垣根を超えるツールになるのではないかと、むしろ拡散して気軽に周知しやすくなるというメリットが大きいのではないかとという提案をいただいた。

(A 委員)

ここの地域とここの地域がつながりがあるなどの、地域組織図を作ったら面白いと思う。

(H 委員)

災害時、消防団員の招集等はSNSで行っている。このコロナ禍において、この間の大雨では3密にならないよう気を付けながら消防団活動を行った。消防団員としてやれること、団員ではやれないことを地域の方々から理解していただくことも大切である。今までは消防団員であれば何でもできるという感じだったが、そこの区別を理解いただければと思う。ただし、消防団員としてではなくとも、ボランティア活動は地域の一人としてやっていきたいと思っている。

(I 委員)

アンケートについて、各地域で課題は異なるが、共通するものを地域間で比較する、次世代とそうでない方で比較するなど、集計の仕方を変えらるともつと色々なことが分かり、貴重な情報がたくさんあると思うので、集計する側で工夫していただいてもいいのかなと思う。あと、アンケートそのものを組織の長にお願いしているが、それでいいのかと疑問もある。関わっている人がどう評価するのも大事だが、一般の住民の方がそれに対してどう思っているかも大事ではないか。

あと、これはお願いになるが、仕事でリモートやオンラインを使用する時に、行政の方から対応困難と言われることが多い。地域に普及させていこうとする中で、行政が積極的に取り入れていただきたいと思う。

(J 委員)

どこの地域も後継者育成が大きな問題である。次の世代だけでなく、20年、30年先を見据えた後継者育成を考えていかなければならないのではと感じた。色々な行事に、若者から役をもってもらい、楽しく参加できるようにしていくことが大事だと思う。

(委員長)

B 委員からご意見があった第2期計画で1期分のやり残しを反映させるかについて、皆さんのご意見を伺ってみて、事務局の見解は。

(事務局)

今後、地域毎になると思うが、あらためて組織の方々、若い世代の方々等を対象にまたご意見を頂戴しながら、その先の課題を事務局で整理し、提案させていただきたい。

(A 委員)

自治会活動をするにあたり、会費を徴収しているが、生活保護世帯などの免責はどうなっているか。また、共同作業に関して、参加できない高齢者など、労力の代わりに負担金をもらっているが、鶴岡全体の状況をお聞きしたい。

(事務局)

住民会費について、多くの所で生活保護世帯は免除、中には高齢者のみ世帯は半額等あるようだが、鶴岡市全体の標準などはなく、それぞれの住民会で決めている。また、共同作業に参加できない場合の負担金がある自治会があることは把握しているが、鶴岡では稀な方との感覚である。なお、住民会活動は任意組織の活動のため、会費等について市で広めることはしていない。

(委員長)

現場でのこういう悩み、高齢化や障害をお持ちの方、困難な世帯の方など、どうやって一緒に仲間として共存していくか、次の5年間の大きな課題だと思う。

会議内容をまとめると、第1期でやり残したこと、市の計画としてPDCAで回していくにはどうしたらいいのかというご質問については、今後引き続き検討していくといことをご理解いただきたい。

次期の課題として、単位自治組織と広域コミュニティ組織で結果が随分違っていることが明らかである。単位と広域で役割分担ができているところもあるが、私の見解としては単位自治組織が苦しい状況になっている。それを広域コミュニティ組織で支える体制が作れるかが大きな課題として浮彫になっていると思う。

また、全地域共通の推進計画の課題として、①防災（関心が高く、全住民が参加しやすいテーマだが、難しい）②担い手人材育成（世代交代、裾野を広げる）③組織のマネジメント（SNS、オンラインなどの習得・活用）④コミュニティビジネス（お金を回していく持続的なコミュニティの構築）⑤組織改革・連携・住民自治組織の統廃合 と整理できるかと思う。

事務局の方でスケジュールの通り進めていくことになるが、委員の皆様のご協力がないと計画策定がなかなか苦しいところがあるので、ご協力をお願いしたいと思う。

(3) その他

特になし

4 閉 会 (事務局)